

Title	病院分布の地域特性に関する研究
Author(s)	金田, 治也
Citation	大阪大学, 1969, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/30059
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

【 4 】

氏名・(本籍)	かね 金	だ 田	はる 治	なり 也
学位の種類	医	学	博	士
学位記番号	第	1763	号	
学位授与の日付	昭	和	44	年
学位授与の要件	医	学	研	究
	科	社	会	系
	学	位	規	則
	第	5	条	第
	1	項	該	当
学位論文題目	病院分布の地域特性に関する研究			
論文審査委員	(主査)			
	教	授	関	悌
	四	郎		
	(副査)			
	教	授	阿	部
	裕	教	授	丸
	山	博		

論 文 内 容 の 要 旨

〔目 的〕

近年、医学の進歩や疾病構造の変化に伴って、地域における病院の組織的整備と、その合理的運営の必要性が高まってきた。このような要請にこたえて、病院行政を正しく推進するためには、地域における病院の整備状況が、機能面をも含めて的確に把握される必要がある。現在、地域別の病床数の充足度を比較する方法としては、対人口病床数が用いられているが、これだけでは上記の目的にはそいがたい。本研究は病院の病床規模と診療機能レベルが相関することに着目し、地域の病院病床数を、病院規模別病床数の構成の差によって分類し、地域における病院分布の特徴を比較検討した。

〔方法ならびに資料〕

昭和39年度都道府県別一般病院の病床数を大病院（300床以上）、中病院（100床以上299床）、小病院（20床以上99床）に分けて対人口病床数を算出して検討した。資料は各年度の医療施設調査、病院報告（以上厚生省統計調査部）、病院要覧（厚生省医務局）等である。

〔成 績〕

- 1 一般病院病床数の対人口比は、全国値は人口10万対656.9床で、府県別にみると最高1,006.5床（高知県）から最低453.5床（埼玉県）の間に分布している。大都市の所在する6府県は全府県中、中位にあり（平均病床数698床、以下同様）、大都市周辺の7県では最も少い（563床）。その他の33県では広い市で分布するが、病床数の多い県が全体の3分の2以上を占めている（24県、749床）。それぞれの地域の病院病床数と有床診療所病床数との間には補完的な関係は認められない。
- 2 小病院病床数の最も少い大都市およびその周辺の府県では有床診療所病床数も最も少い。その他の県では両方の病床数共に多いが、特に小病院病床数が最も多い佐賀、高知県等では診療

所病床数も最も多い。つまり小病院と有床診療所の発達は同じ傾向を示す（相関係数 0.565）

次に小病院および診療所を合わせた病床数と大病院病床数との関係を見ると、大都市周辺の県を除いた府県では、両者は逆相関しており（相関係数 -0.646 ）、大病院と小規模施設の病床の発達は補完的関係にあると考えられる。中病院病床数とその他の規模の病床数との間には一定の関係は認め難い。

3 各府県は一般病院病床数の構成の違いによって次のように分類された。

- 1) 大病院病床数が全病床中、約50%を占める大病院型：大都市の所在する5府県がこれに属する。秋田、富山、和歌山の3県も近い値を示すが、和歌山県は大病院病床の約60%は特殊病床である。また秋田、富山の両県は病院規模に比較して医師数が少い（総合病院100床当り医師数は大都市所在の府県で11.2人であるのに対し、秋田、富山県では平均4.6人）。したがって、これらの県の大病院は大都市の所在する府県の大病院とは性格や機能に異にする。
- 2) 小病院病床数の占める割合が高く、150床未満の小規模病院病床数を加えると全病床中、50%を越える小病院型：これに属するのは茨城、群馬、埼玉、千葉、山梨、福井、岡山、広島、高知、佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島等の諸県で、関東および中国以西の県が多い。このうち高知、佐賀、宮崎は全病床数が特異的に多い県である。
- 3) その他の府県は若干の例外はあるが、多くは中病院病床の占める割合が40%以上を占めており、中間型ともいえる性格を示す。

4 これらの類型は地域における病院発展の歴史的、社会的事情を反映し、病院分化の度合いを示していると思われる。特に大病院の大部分を占める公的病院の発展の程度と各類型の間には密接な関係があり、大病院型に属する府県では公的大病院病床数の対人口比が最も高く（平均278床）、中間型（209床）、小病院型（150床）と順次低くなっている。同じ地方県のうち比較的大病院の多い東北地方では公的病院が発達し、大病院の少い四国、九州地方では公的病院の整備が進んでいない。

〔総括〕

地域における病院分布を機能面を加えて比較するために、都道府県別一般病院の病床数を病院規模別に分けて検討した。

各府県は病床の構成の違いによって3つの型に類別され、病院の分化の仕方が異なっていることを示している。このような地域特性は公的大病院の発達と密接な関連のあることが認められた。

論文の審査結果の要旨

著者は病院の機能レベルが病床規模と相関することに着目し、府県別の病床数を病院規模別病床の構成の差によって類別し、病院分化に地域特性が認められること、またこのような地域特性は公的大病院の発達と密接な関連のあることを明らかにした。

本論文はこの分野における研究に新生面を開いたというべく、病院行政の今後の方策に貴重な示唆を与えるものである。